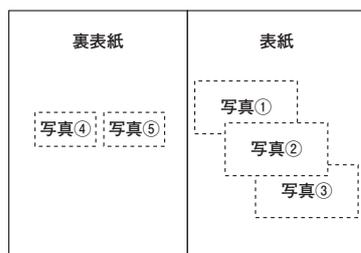


文部科学省シンボルマーク

文部科学省シンボルマークは「羅針盤」をモチーフとしています。教育，科学技術・学術，スポーツ，文化の振興を通じて，希望に満ちた未来を目指す，文部科学省の役割を表しています。上部の円は進むべき方向を象徴し，その使命を見失うことなく，誠意と熱意をもって任務に専心する姿勢を示しています。下部の円の中央から放射状に広がる直線は，社会に開かれた文部科学省の姿勢を表現しています。同時に，親しみやすい簡潔なデザインからは，人，地球など，様々なイメージへと自由に連想を広げることができます。

色彩は日本人に古来なじまれてきた青色を基調として，「瑠璃（るり）色」と「空色」を使用しました。「瑠璃色」は強い意志，品格と知性，「空色」は誠意と未来への広がりという意味しています。

このシンボルマークは，国民の皆様とのコミュニケーションを深めていくための取組の一環として，平成20年1月の新庁舎への移転を機会に制定されたものです。文部科学省は，このマークに込められた意味を忘れることなく，任務に取り組んでまいります。



写真① 全国高校生伝統文化フェスティバル
写真② 鬼北町で地域の方と古代米の栽培にチャレンジする子供たち
写真③ 「ニッポンのたからものプロジェクト～日本遺産×Live Art」より
広島県尾道市・吉和太鼓おどり

写真④ 見附市で地域の方と絵手紙作成にチャレンジする子供たち
写真⑤ 文化庁地域文化創生本部開所式